

# 大門だより

No. 9  
(435号)

荒川区立大門小学校  
校長 野澤 一代  
令和2年 12月 1日

大門小ホームページ

荒川区立大門小学校

検索

《本校の教育目標》 考える子 やさしい子 たくましい子

随時更新中!

## 「師走」

校長 野澤 一代

12月、師走。1年の最後の月だから「極月（ごくげつ、ごくづき）」「限りの月」。古い年を除くという意味で「除月（じょげつ）」という名前もあります。でも、私が好きなのは「梅初月（うめはつづき）」「春待月（はるまちづき）」です。春への期待が込められた言葉です。コロナ渦解消の期待も込めたいものです。

10月26日から1週間。学校公開週間及び学習発表会の参観、ありがとうございました。今年度は、まだ教室への入室が密になるため、授業を見ていただくことはできませんでした。また、学習発表会もこの5か月間の学習の成果を見ていただく掲示とさせていただきます。運動会同様、コロナ禍でできる学校行事の形をとりました。保護者の方々には、学校の様子の一部を見ていただく形だけとなり、大変心苦しい中、「実施していただいてよかった。」「少しでも子供の様子が分かってよかった。」等学校への励ましのお言葉をいただき、教職員一同、本当にうれしかったです。

11月13日、20日は、5、6年生の「夜の学校」を実施しました。清里、下田移動教室の代替としての実施です。保護者の方々を中心となり、レクリエーション、夕食（お弁当）、肝試し、花火等の子供たちに経験させてくださいました。近隣の方々のご理解もあり、無事に終了しました。関係の皆様、ありがとうございました。

早いもので、もう令和2年も暮れようとしています。この1年はどのような年でしたか。

1月下旬から少しずつ猛威を振るい始めた新型コロナウイルス。突然の臨時休校。緊急事態宣言。6月の始業式、入学式。分散登校。夏休み短縮。テレワーク。オンライン〇〇。3密を控える。マスク不足、アベノマスク。新生活様式。オリンピック、パラリンピック延期。プロ野球開幕・6/19、GO TO等々。

今年は悲しいかな、コロナ禍での出来事が中心です。そんな中で、新しい言葉も生まれました。テレビ会議システム、オンライン診療。パンデミック、クラスター、オーバーシュート、ロックダウン。時世を表す言葉は、今後残るものと残らないものがあります。いわゆる「流行」だけで終わるものは、後世に残りません。今年生まれた（流行った）言葉は何が残っていくでしょう。

「新しい生活様式」も同様です。マスクを付けないでの生活は、今後取り戻せるのでしょうか。今後を見通せない不安、それに伴うストレスは大人も子供も同様です。そのような中で忘れてはいけないこと、私達は「人と戦っているわけではなく、ウイルスと戦っている。」ことです。未来の安全のために、私は子供たちに「手を洗おうね。誰が新型コロナウイルス、インフルエンザになってもおかしくないからね。」と声を掛けていきたいと思えます。

年末年始、新しい生活様式の中で、ご家族皆様と一緒に笑顔で過ごせることを心より願っております。

